

産業経済委員会の行政調査

平成23年11月14日から11月16日までの3日間、長野県駒ヶ根市における企業誘致に伴う支援制度等についてと山口県長門市の藻場再生事業について先進地調査を行いました。

【駒ヶ根市】

駒ヶ根市は、長野県の南部に位置し、西に中央アルプス、東に南アルプスの雄姿を望むことができ、駒ヶ岳ロープウェイや駒ヶ根高原、早太郎温泉郷などがあり、全国各地から観光客が訪れる風光明媚な観光都市です。

昭和29年7月1日に赤穂町、宮田町、中沢村、伊那村の2町2村が合併して、駒ヶ根市となるが、昭和31年9月30日に宮田村が分離独立しています。

市の中央を流れる天竜川沿いは県下でも有数な穀倉地帯です。郊外には豊富な水と土地を活用した電機、精密機械などの工業が進出発展するなど企業立地に積極的に取り組んでおり、人口約3万3千600人を有します。

【調査概要】

同市の人口規模は松浦市よりも少

しく、東京からは200キロメートル、名古屋からは150キロメートルと大都市経済圏からは遠く離れ、高速道路が通っていてもさほどインフラ整備が行きとどいた地域という印象はありません。そのような中で、企業誘致の実績を挙げており、いかなる取り組みをしてきたのか、関心を持って視察に出向きました。

企業優遇策については、特段の税制を設けているわけではなく、用地分譲価格についても坪あたり5万3千円と格別安いわけではありません。また、担当者も2名体制でした。ただ、上水道800トン／日に加え、豊富な地下水（日量4千トン）が利用できることをセールスポイントに掲げ、ターゲットを絞って企業にアプローチしたことや企業からの要望には解決策を見つけ次第、直ちに実行に移しています。「企業へ幾度となく足を運び、信頼関係を築き上げることが大切」と強調する担当者の言葉が印象的でした。

【長門市】

山口県の西北部に位置する長門市は、東は萩市、南は下関市、美祢市に接し、北側には北長門海岸国定公

園に指定される美しい日本海の風景が広がっています。

明治の大小区制により区分され、その後、郡制復活や市制・町村制施行、昭和の大合併などの編制を繰り返し、平成17年3月22日に旧長門市、大津郡三隅町、日置町、油谷町の1市3町が合併し、長門市が誕生しています。

日本海沿岸一帯の豊かな漁場では、古くから捕鯨や漁業が盛んに行われ、多くの漁港が点在します。海岸線では、日本海の荒波に浸食された岩と白い砂浜が出入りし、変化に富んだ雄大な自然景観を生み出し、中でも紺碧の海上に奇岩怪石が連なる海上アルプス「青海島」、遙か日本海の展望できる「千畳敷」、本州最西北端に突き出した「川尻岬」の緑青色の海などは、訪れる人々を魅了します。また、長門市は温泉に恵まれ、風情も効能も異なる5つの温泉郷があり、多くの観光客が訪れています。人口約3万8千900人を有します。

【調査概要】

松浦市の漁業については、養殖漁業の不振に加え、海面漁業についても漁獲の低迷が叫ばれています。その要因の一つとして、磯焼けと呼ばれる藻場の消失が指摘され、その対策が急務です。そこで、磯焼け対策の先進地とされる長門市の取り組み

を調査研修しました。

長門市の漁業で特筆すべきは、海女（この地域は男性が大半）による潜り漁が盛んであることです。この人たちが中心となって、藻場保全対策協議会を立ち上げ、長期的かつ組織的に再生事業に取り組んでいます。潜り漁は、漁場の藻場の衰退状況から再生事業の効果について、つぶさに確認できるという強みがあり、漁業者自身が漁獲量の減少という危機感を持って前向きに取り組みをなされていました。

長門市は日本海、松浦市は玄界灘という漁場の特質はかなり異なる背景ではありますが、参考になる事例も多くありました。伊万里湾内の藻場の衰退状況をさらに正確に把握し、藻場再生に向けた対応の必要性を改めて認識しました。



【長門市】